

編 集 後 記

開学以来8年目を迎え、ここに川崎市立看護短期大学紀要第8巻をお届けします。第8巻は11編の論文を掲載しましたが、そのうち4編は看護実習に関する研究で、日頃の看護学生の教育に対する真摯な取り組みを示すものであります。この他「看護場面における沈黙についての文献研究」という非常に基礎的な研究から、臓器移植や、死に対する意識調査、またインシデントレポートの分析による「事故の実態と発生要因に関する研究」といった実践的研究、さらに「医師の治療方針とは別の治療方法を選択した患者の意思決定の分析」と、逆に「一般病棟で妻を看取った夫の後悔」といったユニークな論文等々、意欲的な研究が載せられています。

また現在紀要編集委員会では、国立情報学研究所の呼びかけに応じ、紀要の電子化に取り組んでおります。これが実現した暁には今より一層広範に読まれることと期待しております。本学の紀要に対して多方面からのご意見やご高評を頂き、より良いものとしていきたいと願っております。

最後にこの度の紀要発刊に当たりご協力いただいた教務課の事務担当者に感謝いたします。

(大江 基 記)

紀要編集委員長	大 江	基
委 員	岩 倉	孝 明
委 員	西 端	泉
委 員	富 岡	晶 子